

平成28年度 第3回東部地区幼稚園教員・保育教諭・保育士等の合同研修会

「音楽遊びを通して自己表現を楽しむために」

日時：平成28年7月4日（月） 場所：県立県民体育館

【研修講師】鳥取短期大学 幼児教育保育学科 教授 羽根田真弓 氏



【ねらい】

幼児期における表現活動の意義について理解を深めるとともに、音楽遊びを通して表現する楽しさを味わうことができるような指導の工夫について学ぶ。



【研修の様子】 ★実技の様子



目と目を合わせて、自分の声を生かして、子どもたちといっしょに楽しみましょう。

歌遊びは、教えるものではなくて、楽しむもの！指示を出しすぎず、子どもたちが次の動きを予想して動けるように見守りましょう。



子どもたちが、自然に歌いたい、真似したいと思えるような手遊びにしていきたいと思います。



1 音楽遊びの意義

- ◇ 音楽遊びに参加する子どもたちには、**次の動きを見通す判断力**が求められる。手合せなどのルールのある歌遊びは、子どもたちに判断力や集中力を働かせ、音楽への**主体的なかかわり**を引き出す。
- ◇ ボイスパーカッションなどの歌遊びは、心身一体となる感覚や集団への所属感を感じることができる。この**連帯感情をもつ体験**が、集団の中で自己発揮や自己表現への意欲を育てていく。また、求められる役割をやり遂げることで、役割分担の大切さに気付いたり、独立心が育まれたりする。

2 音楽遊びの留意点

- ◇ ルールを教え込まない。
- ◇ 慣れてきたら、保育者も子どもと対等の参加者となる。
- ◇ 原則として伴奏楽器は不要。調子やテンポは、子どもたちが自然に生み出していく。

音楽遊びで育てたいもの

⇒ **音楽に主体的にかかわり、表現しようという意欲や態度**

演奏の仕方や出来ばえにこだわるのではなく、まずは、子どもたちの**素朴な表現を受け止めることが大切です**。そして、子どもたちの**主体性や自発性を発揮できる音楽遊びになるように援助していきましょう**。

【参加者の感想】

- 歌や手遊びを通して、子どもたちは人とふれあう楽しさや心地よさを感じたり、集団生活に必要な力を身に付けたりしていきのど感じた。今日、私が感じた心地よさを、子どもたちも体験できるように一緒に活動したい。
- 学びながら、自然と笑顔になった。ピアノだけでなくタンブリンなどを使って、気軽に取り組みたい。
- 最初は自分から相手探しに行けなかったり、間違えたらどうしようと思ったりして不安な気持ちだったが、繰り返すうちに楽しく、仲間意識が芽生えてきた。子どもたちと歌遊びをするときも、このような子どもの変化や子どもたち同士の関わり方を温かく見守っていこうと思った。
- 小学校低学年の音楽で歌う曲もたくさん紹介していただいた。遊びの中に含まれている知的な学びについて実感しつつ、心も楽しめる内容だった。小学校でも、ぜひ、取り組みたい。
- 上手に手や指先を動かす為の手遊びではなく、手遊びを通して人とのつながりや音楽の楽しさを感じることが大切だと感じた。

遊びを通じた楽しい表現活動に取り組みたいと思います。

